

次代に花開く “さくら” 活力と魅力に栄える自立・定住・交流のまち

さくら市
都市計画
マスタープラン



令和3年3月



はじめに



さくら市は、里地・里山の自然環境、豊かな農地、市街地や産業拠点となる地域など、都市と自然のバランスが取れた空間を有するほか、首都圏、県都宇都宮市、世界的な観光地である日光市に近いといった地理的優位性や、古くからの街並みに代表される歴史・文化、多くの人達が訪れる桜の名所や温泉など、特色ある地域資源に恵まれています。

また、全国的に地方の人口減少が進む中であっても、流入人口が多いことなどから、人口の現状維持を保っている数少ない自治体の一つであり、さらには、15歳未満の人口が全人口に占める比率（13.8%：令和元年10月1日時点）が県内で最も高い「県内1子どもが多い」自治体となっています。

そこで本市では、そのような特色を更に活かすため、「第2次さくら市総合計画」に掲げる施策を更に一歩進めて実行する「さくら市進化プラン」において、「さくら市の魅力倍増！ふるさととの進化」を掲げ、氏家豊かな暮らしゾーンや喜連川おもてなしゾーンの設定に向け、さくら市の魅力を増進する事業に力を入れているところであり、子育て環境や交通・防災環境についても「母になるならさくら市で！働き・子育て環境の進化」「いつまでも安心なくらしのために…医療・福祉・移動手手段の進化」に取り組んでいるところです。

一方、様々な取り組みを進めている中においても、市内においては、開発等で人口が増えている地域と、中心市街地をはじめ人口が減っている地域とが二極化するというアンバランスさが顕在化し、超高齢社会の進行、街なかの賑わいの低下、誰もが移動しやすい交通手段の確保、集中豪雨等による大規模災害への備えなどの課題も見受けられます。

こうした状況を踏まえ、本市では、昨今の我が国における社会情勢の大きな変化やさくら市の持つ強み・弱みをしっかりと見極め、将来的に持続可能な都市の実現を目指していく必要性から、この度、「さくら市都市計画マスタープラン」の見直し・改定を行いました。

今後は、本計画の内容に基づきながら、市民と行政の協働により、魅力的で住み良い、市独自のコンパクトシティ形成に向けた各種まちづくり事業に取り組み、「暮らしが楽しめる健康・里山・桜の小都市」となるようまちづくりを進めてまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、「都市計画審議会」及び「都市計画マスタープラン策定委員会」の委員の方々、多大なご協力をいただいた全ての皆様に心から厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

さくら市長 花塚 隆志

【 目 次 】

序 章 さくら市都市計画マスタープランについて	1
第1章 さくら市の現況と課題	3
1 さくら市の特徴	3
2 我が国の動向	12
3 市民意向調査からみたまちづくり	14
4 さくら市のまちづくり課題	16
第2章 将来都市像	18
1 都市づくりの基本目標	18
2 将来人口の想定	19
3 将来都市構造	20
4 重点プロジェクトの設定	24
第3章 全体構想	26
1 土地利用の基本方針	26
2 交通体系整備の基本方針	30
3 その他都市施設整備の基本方針	32
4 自然環境の保全・活用の基本方針	34
5 都市防災の基本方針	35
6 景観・街並み形成の基本方針	37
7 交流環境形成の基本方針	39
第4章 地域のまちづくり構想	41
1 鬼怒川・五行川流域	42
2 冷子川・市の堀用水流域	49
3 荒川・内川流域	55
4 江川・岩川流域	62
第5章 まちづくりの推進方策	68
1 重点的施策の抽出・設定	68
2 まちづくりの推進方策の整理	69
3 計画の推進に向けて	78
参考資料	80